

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子月島保育園
施設所在地	東京都中央区月島1-5-2キャピタルゲートプレイス204
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

子ども達が室内で体を動かして遊びたいという声が多く、「どんなことがしたいか」の問いかけに多くの意見が出た。憧れのスポーツや速く走りたい、高く跳べるなど「やりたい」「できる」の気持ちをくみ取った。また子ども達の転倒が多く、前歯を打つなどの怪我が続いた。保育士から体幹の強化や自分の体の使い方について伝えたいとの声上がり、運動遊びのテーマを設定した。

当園は園庭がないが、リトミックやダンスなど体を使って楽しむ活動を独自に続けているので、今後も子ども達の興味や関心を広げていきたい。

## 2. 活動スケジュール

「やってみよう36の動き」のパネルを導入し、子ども達にやりたい動きやできる動きなどそれぞれ決めてもらい、子ども達で共有する。その後、子ども達がやりたい動きや育てたい動きができる運動遊びを展開していく。いろいろな運動遊びに関して、子どもの興味のある動きに関連した動画を子どもと一緒に視聴したり、子どもの意向に沿った動きを導入していく。異年齢での活動なので、体力や能力などに合わせ、一つの道具に対して何通りか違う動きを伝えることで自分にあった動きを自分で見つけ、チャレンジできるようにする。

【8月～9月】「やってみよう36の動き」導入し、4・5歳児別々に話し合いを行った。

子ども達のやりたい動きを遊びの中で行い、特にマット運動・跳び箱・パラバルーンなどに関心を持っていた。日々の遊びを通して、安全なやり方を伝える。他クラスの園児に頑張った成果を披露したり、運動会の競技として実施した。

9月2日、講師を招き、園児たちに基本的な動きを教えてもらう。またスタッフに子ども達に育ちに必要な動きや安全な運動遊びの指導を受ける。短時間でも毎日基本的動作を行う事が大切とのことであったので、毎日簡単な運動遊び、基本動作を実施する。

【10月～11月】リトミックで自由に体で表現する運動遊びを導入。最初は子ども達が聞きなれた童謡など表現しやすい曲で展開し、少しずつ子ども達が自らの感性で表現できる曲に移行したり、音を聞いて子ども達が考えた動きを取り入れていった。暑さが和らぎ戸外で運動遊びができるようになると、ドッチボールやリレーなどを楽しむようになり、“ドッジボールが強くなりたい”“速く走れるようになりたい”など、子ども達の中で“こうなりたい”という気持ちが膨らんでいた。10月23日再度講師を招き、室内で基本動作を交えた動きやマット、平均台などを使ったサーキット遊びの展開の仕方を教えてもらい、遊びの幅が広がった。

【12月～1月】子ども達の中で憧れのスポーツ選手の話が話題になり、その中で「筋肉」が話題に。「どうしたらきんにくもりもりなるかなあ」「そうしたらホームラン打てるよ」「はしるのはよくなるね」など子ども達のつぶやきを拾い、「筋肉をつけるためにどうしたらよいか」などの食事と体づくりの話題から食育に繋がった。

1/26講師を招き子ども達が日頃の成果を披露、体幹やバランス感覚が良くなっているの、子ども達の今後の展開や環境構成の指導を受けた。また、運動遊びを継承するための取り組みについてもアドバイスを受けた。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

運動遊びのための用具（鉄棒・平均台・マット・エアーマット・跳び箱・人工芝マット）音響セット・ピアノ・PC

運動遊びのための講師指導料、および動画での運動遊び指導用動画の視聴料金

運動遊びができるよう4・5歳児保育室を繋げてホールとして開放。

また、運動遊びと静的遊びのスペースに分け、自身で自由に活動を選択できるように設定。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

①「やってみよう36の動き」を導入し、「できる動き」や「難しい動き」など興味を示した動きを行う。用具を導入し、子ども達とともに用具をどのように使用し活動するか決める。運動遊び講師による研修・実践（保育士・園児向け）用具の使い方がパターン化していたため、いろいろなパターンの使い方について指導を受ける。子ども達は興味を示し、自分たちでパターンを組み合わせるなど工夫して遊んでいた。また「こういう動きはできる」などアイデアを出し合ったり、子ども同士で教え合うなど、個々に運動遊びを展開をしながらも協力し合う姿が見られた。逆に用具を使わない運動遊びの導入によって、自分ができる運動を自由に変化させられるようになった。毎日短時間実施することで、疲れややる気を失わず集中して継続することができた。またできることが増えた事で、子ども達が毎日の運動遊びメニューを決め、主体的に行えるようになり体を使った遊びを十分楽しめるようになった。少しずつ用具のコーディネートが出来るようになり、視聴した動画などを参考に自分たちで考え、オリジナルの運動遊びを毎日行えるようになった。

②子ども達の中で憧れのスポーツ選手が話題になり、その中で特に「筋肉」について興味をもつ様子がみられた。「どうしたらきんにくもりもりなるかなあ」「そうしたらホームラン打てるよ」「はしるのはよくなるね」など子ども達のつぶやきから、筋肉もりもりになるためにどうしたらいいか問いかけた。子ども達の中から「ご飯をたくさん食べればいいよ」と食事に関係した発言が出たので、そのまま食育に繋げた。食事について詳しい人を考え、「給食の先生に教えてもらおう」との意見から「三色食品群」に関連した食育を実施。子ども達から「もっと知ってるよ」などの声から子どもたちが主体となってオリジナルの「3しょくしょくひん」を作成し、他クラスにも知ってもらいたいとの意見から園内に掲示した。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

子ども達は新しい用具に興味を持ち、やる気満々の姿を見せていた。うまくいかないことや思い通りにならないことがあると落胆する姿もみられたが、そのたび他児や保育者からの応援に励まされ再度チャレンジする姿が見られた。繰り返し何度も前向きに挑戦し、自分でコツを見つけたり、自分の思うように体を動かせると「できた」という達成感を味わっていた。他児も拍手をしたり喜びを分かち合い、「次はこうしたい」「あれをやりたい」と自分の思いを表現しながら、次はどう行おうか担任と子ども達で話し合いながら、次の活動につなげていた。毎日短時間の運動遊びを行うことで、経験を重ね動きが機敏になった。お互い競い合ったり、友達に見せ合ったりする姿も見られ、また保育士に見てもらいアドバイスを貰ったり褒められることで意欲が増し、子ども達自ら「こうしよう」と主体的に取り組めるようになった。日頃より子どもの発言やつぶやきを逃さないようにし、それに対して応答をこまめに行ったことで運動遊びの展開や食育につなげることができた。食育活動では、栄養士が子どもの声に対し「丈夫な体」になるために食事の大切さを知ってもらいたいという思いから、保育士とともにどう展開していくかを話し合った。色々な食材や体と食べ物の関わりについて子ども達に知ってもらい、興味をもつかを考え、子ども達に提案を行った。子ども達からは自分たちで知っていることを発言し、栄養士がきっかけを作り、「三食食品」に繋げた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達の「やりたい」という気持ちに応えながら、基本的な運動能力アップを目的に運動遊びを導入した。これまででは落ち着きなく動き回ったり、意図なく突発的に体を動かすなどの行動が多く見られていた。運動遊び導入後、個人差はあるものの動的動きと静的動きの時間や場所を分けることを意識したことで場面の切り替えができるようになり、心身ともに落ち着いて過ごす時間が増えた。講師の方の指導で、平均台や鉄棒、エアーマットなどの安全な使い方や、用具を使用しての色々な動き、子ども達の発達に必要な動き（股関節を広げるなど）の様々な指導を受け、運動遊びの幅が広がった。また、毎日短時間でできる運動遊び(基本動作)の指導を受けた。基本動作を発展させることで、いろいろな動きができ子ども達が飽きずに行え、主体的な活動に繋がった。今まで転んで怪我をしていたが転んでも怪我をしなくなり、子ども同士ぶつかることが少なくなるなど子ども達の動きにメリハリが持てたり、体の使い方がうまくなった。運動遊びの動画で園児と保育士が視聴し、知識を習得したり、子どもたちが「こんな動きをやってみたい」と運動遊びに応用・展開できるようになった。また、子ども達が自ら動きを考えたり工夫するなど、運動遊びやリトミックを主体性を持って体を動かすことを楽しむ姿が多く見られるようになった。今回、講師の指導を受け実施したことで、保育士の運動遊びがパターン化していたことが改善され、いろいろな運動に展開でき幅が広がった。また、用具を用いての「熱中できる遊びの環境づくり」を行うことで、室内でも体の様々な部位を使う経験が増え、子どもが身を守る安全能力を向上させられているように感じる。子ども達は日々楽しみながら自然と経験を積み重ねたことで、体幹やバランス感覚が培われたようで以前に比べ怪我が減った。また、やりたいと思う気持ちから、何度も何度も挑戦し、「自分ならできる・諦めずに頑張る」の気持ちに変化した子ども達の意欲が伝わった。運動遊びの成果が保育士だけでなく子どもたち自身も感じられるようになり、保育士や子ども達の学びが深まった。個々の活動の中で助け合い・教え合う姿も見られ、集団遊びでもそのような姿を認めるようになった。また、体を動かすことだけでなく、体を作るための食べ物を知ることで、子ども達とともに体を丈夫に保つことや元気でいることの大切さを一緒に学ぶ機会となった。

今後も子ども一人ひとりが意欲的に活動を行えるよう研鑽し、個々に合った活動でありながらも、子ども達がお互いに切磋琢磨しあえるような協同的な遊びとなるよう、展開していきたい。また継続的な活動となるよう、運動遊びの楽しさを大きい子から小さい子へ手本を見せたり教えたり、楽しむ姿から伝え、園の継続的な取り組みとしていきたい。